とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1101
施設名	ふかさわミル保育園
施設所在地	東京都世田谷区深沢１－３２－２４
法人名	社会福祉法人菊清会

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

園舎内のいろいろな場所で遊ぼう！

＜テーマの設定理由＞

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

子どもの主体性を育むことがねらいのふかさわミル保育園では、今年度は子どもの安全面に最大限配慮しつつ「園内の好きな場所に自分の足で出かけ、好きな遊びを好きなだけ行える環境整備に力を入れる」という計画を立てました。子ども一人ひとりが屋内外を問わず園内に自分のお気に入りの場所・居場所をみつけ、そこで好きな遊びに没頭する時間を保障するため、このようなテーマを設定しました。

２．活動スケジュール

【5月　植えようフェス】花や野菜の苗・種を園庭花壇に植えよう
【6月　園庭デー】園庭内のいろいろな虫や植物をみつけてマップをつくろう
【10月 秋の植えようフェス】秋から冬にできるお野菜ってなんだろう。植えてみよう。
【11月～1月　異年齢グループウォークラリー】自分たちでいろいろな場所に行ってみよう
【3月観察しよう！作ってみよう】

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

●園庭砂場用テーブル（園庭で収穫した野菜や昆虫の観察）
●オートロック式木製鍵（幼児が自分の判断で園内の他の部屋に安全に移動できる）
●乳幼児飛び出し防止柵・扉（グループ活動中の園外への飛び出し防止）
●屋外鉄製階段のコルク舗装（乳幼児が自分の足で安全に階段昇降できるように）

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

【①植えようフェス】０～5歳児までの園児が自分たちの野菜や花の苗や種を園庭内の好きな場所を選び、花壇やプランターに植え、みずやりや肥料をあげるなど、収穫までお世話をした。収穫した野菜や花はおままごとで使用したり実際に給食の献立に取り入れたりした。
【②園庭デー】園庭のいろいろな場所にいるダンゴムシ・アリ・ミミズなどの小さな生き物や植物・木の実などをグループで見つけ、園庭マップ上の見つけた場所にシールを貼り、園庭生き物マップをみんなで作成した。
【③異年齢グループによるウォークラリー】主に3～5歳児で異年齢グループを編成し、自分たちの保育室以外のさまざまな場所に自分たちで足を運び、ミッションをクリアして回る日を設けた。
【④観察しよう。作ってみよう】収穫した野菜や花を摘んでルーペで観察したりスケッチをした。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）
①植える苗の根を見て「ひげがいっぱい」と表現したり、かぼちゃの種の色が青いことに驚く姿があった。植えようフェス後も自分たちでお世話をしたいという気持ちが生まれ、率先して野菜や花にじょうろで水をあげる姿があった。自分たちで栽培したトマトやきゅうり、ピーマンを収穫し給食室に運び、次の日の給食のメニューにも盛り込んでもらい喜ぶ姿があった。
②はじめは幼児クラスの子どもが意欲的に活動に参加していたが、徐々に下の学年の園児も見て真似る姿があった。園庭内でみつけた木の実や生き物を保育士や周りの友達に生き生きと伝えていた。出来上がった地図は保育室内に掲示して保護者の方にも見ていただいた
③大人について回るのではなく自分たちの意志で好きな部屋に遊びにいくことで、普段は活動に入りづらい子どもも進んで活動に参加し、下の学年の子をリードする姿があった
④園庭で栽培し、収穫した野菜や花びらを摘みとり、園庭砂場に新たに設置したテーブルで落ち着いて熱心に観察する姿があった。





５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

●子どもたちの主体性を育むための環境設定が大事と言いながらも、どうしても安全面を優先し、活動が制約的になったり、「勝手にそっちに行っちゃだめ」等の静止の声掛けを多用していたことに気づいた。

●自分で活動を選び、自分の好きな場所に自分たちの意志で足を運ぶことができる環境を構築したことで、それまで活動に消極的だった子が年下の子をリードしたり、乳児に会いに行ったり積極的な姿を見せた。子どもを大人の先入観で評価することの危うさに気づいた。様々な可能性を視野に多様な関わり方を模索することの重要性を痛感した。